



安全安心だより

令和5年度 No.10

～登下校の子どもの安全をみんなで守ろう！～

子どもの特性・車の特性について

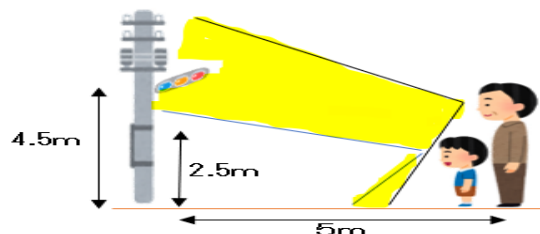
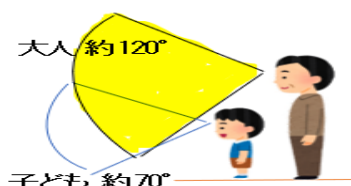
松山市地域学校安全指導員（スクールガード・リーダー、以下「SGL」と表記します。）による単位PTA訪問がまもなく終了しますが、情報共有を行ったところ、子どもの登下校時などの交通問題が多い状況でした。子どもの交通事故防止に向けて、子どもの特性・車の特性について考えて見ましょう。

子どもの特性

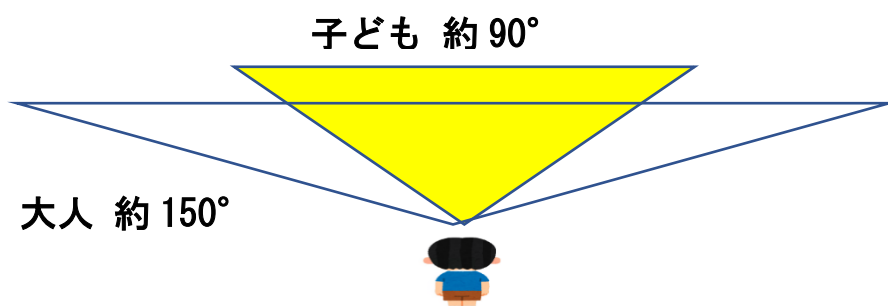
子ども（特に低学年）は、大人より視野が狭く、視点も低いため、大人に見えていることが子どもに見えていないことがあります。また、判断を大人に委ねる傾向もあります。

垂直視野(上下)

大人は上下に約 120° 、6歳の子どもの上下に約 70° の視野です。対象物と5メートル離れた場合、大人は上下に4.5メートルの視野、子どもは上下に2.5メートルの視野です。



大人はまっすぐ前を見ている、左右 150° も視野が広がっていますが、6歳の子どもは左右 90° しか見えていません



子どもから見えていない部分に注意が向けられるように、声掛けや指さしをして見せることも考えてみてください。

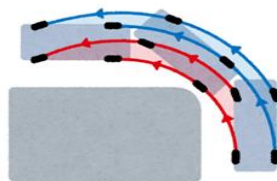
車の特性

● 内輪差

車が右左折するときに生じる内輪差。

大きな車になるほど内輪差は大きくなります。

巻き込まれる危険を考えて、交差点では少し下がった所で待つように指導を考えてみてください。



● 死角

車には、ドライバーから見えない部分（死角）があります。信号待ちなどの際、車両の直ぐ前にいると死角に入りやすく、ドライバーから見えていないので注意が必要です。

車の後方に死角があります。



車の前方に死角があります。



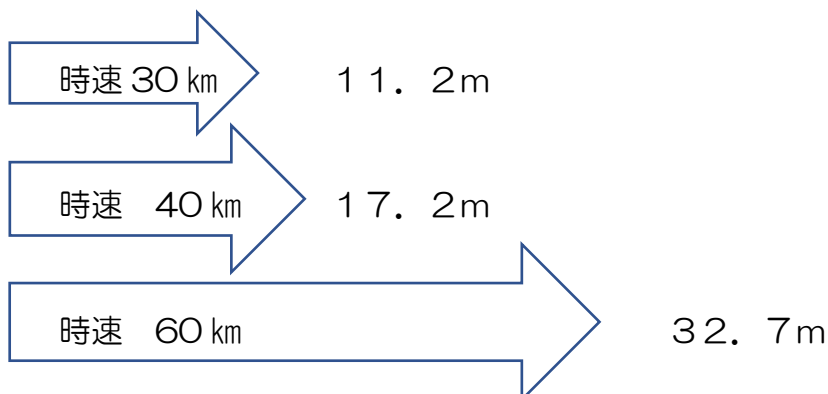
車の左右に死角があります。



● 車の速度と停止に必要な距離

～車は急に止まれない！～

ブレーキをかけてから、停止できるまでの距離です。



進行して来る車に停止を求めるときは、十分な距離が必要です。

見守る方と子ども達の安全のために共有認識を持っていただけると幸いです。

（交通安全 子ども見守りハンドブック 京都府警 参照）

～「子ども安全安心対策推進事業」に関するお問合せ等は～
教育支援センター事務所（安全・安心担当）
電話：０８９－９４３－３２０５ まで

担当者のひとりごと～

まもなく卒業式シーズンですね！別れはつらいですが、また、新しい出会いがありますよ！